

C-18 婦人の頸部計測に関する一考察

名古屋市立女子短期大学 住田八重子 ○大橋陽子 吉田成子

目的 被服構成における衿の形及び衿腰の高等について、頸部の基本的計測の必要を感じた。そこで頸部の長さ、太さ、肩傾斜その他等を計測することにより、頸部の形態を把握し、構成への一助としたい。

方法 女子短大生 138 名を被験者として、マルチンによる人体計測法に基づき、頸部を主とした各部位の計測を行なった。頸の長さは、被験者の頭部を耳眼水平面(Ohr-Augen Ebene)に保たせて、下顎下縁正中点高(Gnathion)と胸骨上点高(Suprasternale)によって求めた。頸圍は巻尺で咽喉の直下を水平に測り、頸付根圍は細い鎖により計測した。その他、頸部幅径、頸部矢状形、肩傾斜角度、参考部位として身長及び胸圍を計測した。計測結果を統計的に処理し、相関関係、標準偏差等を用いて、頸部形態の比較・検討を試みた。

結果 頸の長さの平均値 6.63 cm、最長 9.5 cm、最短 4.6 cm、頸圍平均値 30.70 cm、最も大きいもの 35.5 cm、最も細いもの 27.5 cm であった。肩傾斜は左右差を示す者が大半であり、傾斜角度大は 39°、小は 16.5° であった。相関関係では、各周径間や幅径・矢状径と周径間においては相関がみられられたが、長径と周径・幅径・矢状径間には、ほとんど相関がみられず、特に頸の長さ間において低い相関を示した。